

| | | | | | | | | | |
|--|----------------------------|--------------------|--------|----------------|---------------|------|------------|------|-----|
| 科目ナンバリング | | U-LAS02 10017 LJ36 | | | | | | | |
| 授業科目名 <英訳> | ドイツ文学 German literature | | | 担当者所属 職名・氏名 | 文学研究科 教授 川島 隆 | | | | |
| 群 | 人文・社会科学科目群 | | 分野(分類) | 芸術・文学・言語(基礎) | | 使用言語 | 日本語 | | |
| 旧群 | A群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | 講義(対面授業科目) | | |
| 開講年度・ 開講期 | 2026・前期 | | 曜時限 | 月5 | | 配当学年 | 全回生 | 対象学生 | 全学向 |
| 【授業の概要・目的】 | | | | | | | | | |
| <p>2024年に没後100周年を迎えたフランツ・カフカ(1883-1924)は、いわゆる不条理文学の代表者として、今なお世界の文学・文化に影響を与えつづけている。ある朝、得体の知れない「虫けら」に変身した姿で目覚めたサラリーマンの運命を描いた『変身』をはじめ、難解なカフカ文学に関しては、宗教的解釈・実存主義的解釈・マルクス主義的解釈・精神分析的解釈・ポストモダンの解釈など、非常に多くの解釈アプローチが乱立しているが、この授業では、カフカの「正しい解釈」を行うのをめざすのではなく、文化史・社会史・政治史などの文脈中にカフカ文学を位置づけ、そこから浮かび上がってくるものに目を向ける。そのことを通じて、文学と社会の相互作用のメカニズムを実感として把握できるようになることが授業の目標である。</p> | | | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. カフカ文学について基本的な知識を得る 2. カフカ文学の多様性がどのような文化史的・社会史的・政治史的な文脈から生まれているかを理解し、文学とその背後にあるものの関係をイメージできるようになる | | | | | | | | | |
| 【授業計画と内容】 | | | | | | | | | |
| 第1回 イントロダクション カフカとは誰か？ 第2回 『変身』 サラリーマン文学として読む 第3回 『変身』 ひきこもり文学として読む 第4回 『変身』 人間と動物の境界線 第5回 カフカの公文書 第6回 長編『失踪者(アメリカ)』 アメリカ移民とドイツ文学 第7回 長編『失踪者(アメリカ)』 文学と映画 第8回 長編『訴訟(審判)』 原稿の編集をめぐる問題 第9回 長編『訴訟(審判)』 法と正義 第10回 長編『城』 到達不可能性というテーマ 第11回 長編『城』 難民文学として読む 第12回 カフカの短編 『判決』『田舎医者』 第13回 カフカの短編 『ジャッカルとアラブ人』『あるアカデミーへの報告』 第14回 カフカの短編 『断食芸人』『巣穴』 第15回 まとめ | | | | | | | | | |
| (扱う作品や順番は授業の進行によって変わる場合がある) | | | | | | | | | |
| 【履修要件】 | | | | | | | | | |
| 特になし | | | | | | | | | |
| ----- ドイツ文学(2)へ続く ----- | | | | | | | | | |

ドイツ文学(2)

[成績評価の方法・観点]

授業中の小課題にもとづく平常点（50％）および期末レポート（50％）で評価する。

[教科書]

多和田葉子(編) 『ポケットマスターピース01 カフカ』（集英社，2015年）ISBN:9784087610345

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業で扱う / 扱った作品を可能なかぎり実際に手に取って読んでみてほしい。

[その他（オフィスアワー等）]

kawashima.takashi.7v@kyoto-u.ac.jp

[主要授業科目（学部・学科名）]